

2025年8月期決算説明資料

Chordia Therapeutics株式会社
(証券コード：190A)

2025年10月14日

目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2025年8月期業績および2026年8月期業績予想	P.	6
3.	パイプラインの進捗状況	P.	10
4.	事業の振り返りと今後の見通し	P.	25

当社は武田薬品工業からスピントウトした低分子抗がん薬創薬企業

●2017年10月に創業し、7年弱の期間を順調に推移することで、2024年6月に東証グロース市場に上場を果たす

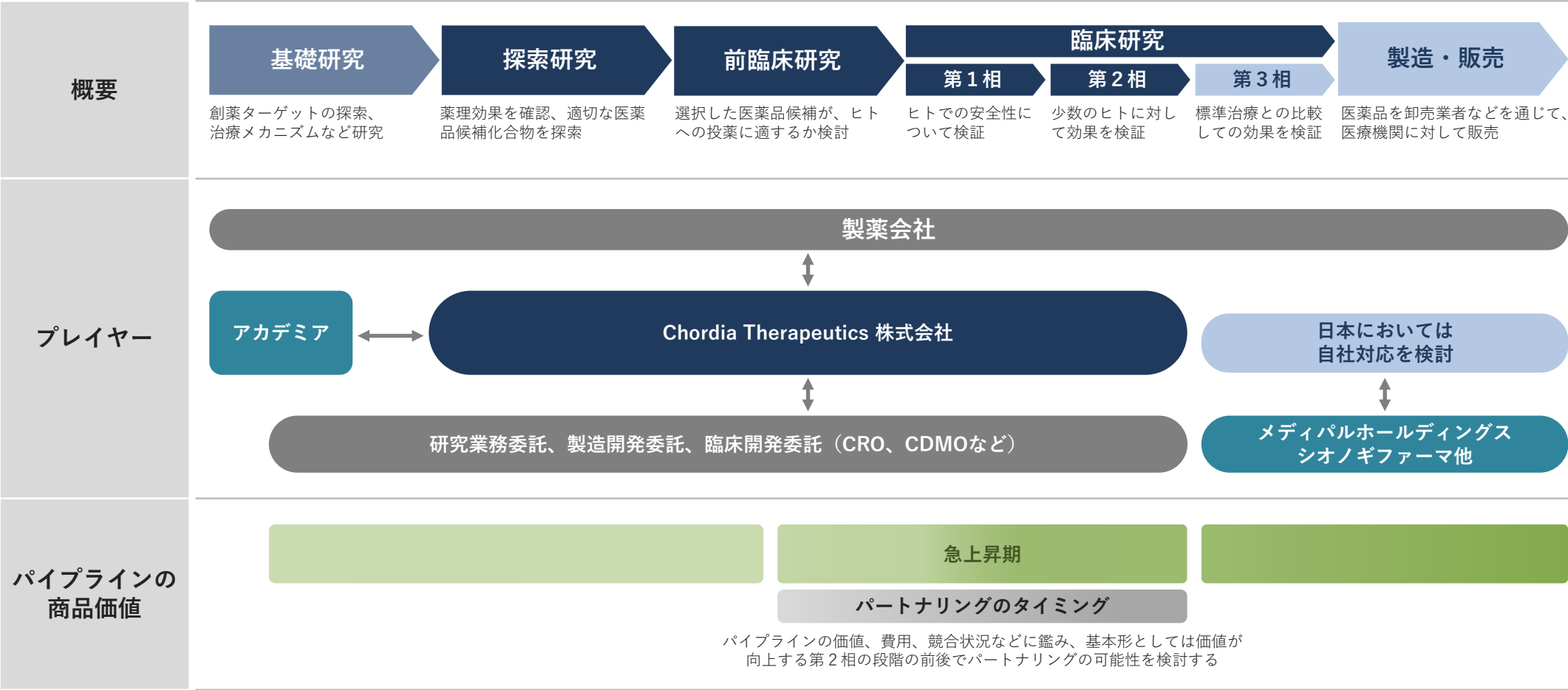
2025年8月末現在



会社名	Chordia Therapeutics株式会社
証券コード	190A
設立日	2017年10月12日
代表者	代表取締役CEO 三宅 洋
本社所在地	神奈川県藤沢市村岡東2-26-1
社員数	23名（内、PhD12名）
筆頭株主	武田薬品工業（約15%）

臨床POCを確立したパイプラインをもとに高利益なビジネスを目指す

●探索研究から臨床研究までをコアビジネスとし、製造・販売については国内を自社で行うことを視野にいてビジネスを展開する



目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2025年8月期業績および2026年8月期業績予想	P.	6
3.	パイプラインの進捗状況	P.	10
4.	事業の振り返りと今後の見通し	P.	25

2025年8月期の財政状態（貸借対照表）

●研究開発への先行的な資金投入により、当期末の現金及び預金残高が減少し、純資産も減少する結果となった。当面の事業活動を継続するために必要な資金は十分に有しており、2025年9月に発行した新株予約権により将来的な資金調達手段も確保している。

単位：百万円

	2024年8月期末 残高	2025年8月期 残高	増減
流動資産	4,605	2,669	△1,936
現金及び預金	4,329	2,548	△1,781
その他	276	121	△155
固定資産	26	12	△14
資産合計	4,632	2,681	△1,951
流動負債	471	244	△227
固定負債	-	-	-
負債合計	471	244	△227
純資産合計	4,161	2,437	△1,724
負債及び純資産合計	4,632	2,681	△1,951

2025年8月期のポイント

- 流動資産、純資産：
 - ・ 現預金と純資産：研究開発への先行投資で現金及び預金残高が減少し、純資産も減少
- 流動負債：
 - ・ 未払金：リードパイプラインrogocekib治験薬の製造費に係る債務が減少した影響のため

2025年8月期の経営成績（損益計算書）

●25年8月期は事業収益の計上がなく、営業損失および当期純損失を計上。R&D費用は、主力パイプライン「rogocekib」の臨床試験費用が増加した一方、それ以外のパイプラインのコストは抑制に努めたが、特許関連のコスト増の影響もあり前年同期比では総額として増加。

単位：百万円

	2024年8月期 通期実績	2025年8月期 通期実績	増減
事業収益	-	-	-
直接費	-	-	-
R&D費用	1,499	1,425	△74
rogocekib (CTX-712)	1,018	1,070	+52
CTX-177	0	0	0
CTX-439	132	27	△105
その他（含む人件費）	347	331	△16
その他一般管理費	301	364	+63
営業損失	△1,801	△1,789	
営業外収益/特別利益	17	23	+6
営業外費用/特別損失	41	17	△24
税引前当期純損失	△1,824	△1,783	
法人税等	2	2	0
当期純損失	△1,827	△1,785	+42

2025年8月期のポイント

- rogocekib: CTX-712（CLK）：
 - ・米国での第1/2相臨床試験において、これまでに36症例を登録済み
- CTX-177（MALT1）：
 - ・新たな導出先に向けて積極的に検討・交渉中のため、コストは抑えられている
- CTX-439（CDK12）：
 - ・開発パートナーの探索中でありR&D費用は減少
- その他一般管理費：
 - ・特許関連のコスト増加の影響のため

2026年8月期の業績見通し

●Rogocekib(CTX-712)の臨床試験を最優先事項として推進していく計画であり、2026年の早いタイミングで拡大コホートにて症例数を大幅に増やすことを計画している。他のパイプラインは、引き続きコストを抑制しながら、他社との事業提携を含めて戦略的に検討する。

単位：百万円

	2025年8月期 通期実績	2026年8月期 通期：計画	増減
事業収益	-	-	-
直接費	-	-	-
R&D費用	1,425	1,590	+ 165
CTX-712	1,070	1,131	+ 61
CTX-177	0	17	+ 17
CTX-439	27	22	△5
その他（含む人件費）	331	420	+89
その他一般管理費	364	418	+ 54
営業損失	△1,789	△2,008	△219
営業外収益/特別利益	23	50	+ 27
営業外支出/特別損失	17	0	△17
税引前当期純損失	△1,783	△1,958	△175
法人税等	2	2	-
当期純損失	△1,785	△1,960	△175

2026年8月期における研究計画

- rogocekib: CTX-712（CLK）：
 - ・日本での第1相臨床試験の完了
 - ・米国での第1/2相臨床試験の拡大コホートを実施して、症例数を大幅に増やす予定
- CTX-177（MALT1）：
 - ・再導出に向けて積極的に推進する想定
- CTX-439（CDK12）：
 - ・他外部委託研究費についてはAMEDからの助成金を受けた活動のみ利用想定
- その他一般管理費：
 - ・登録/免許関連・保険のコストによる影響

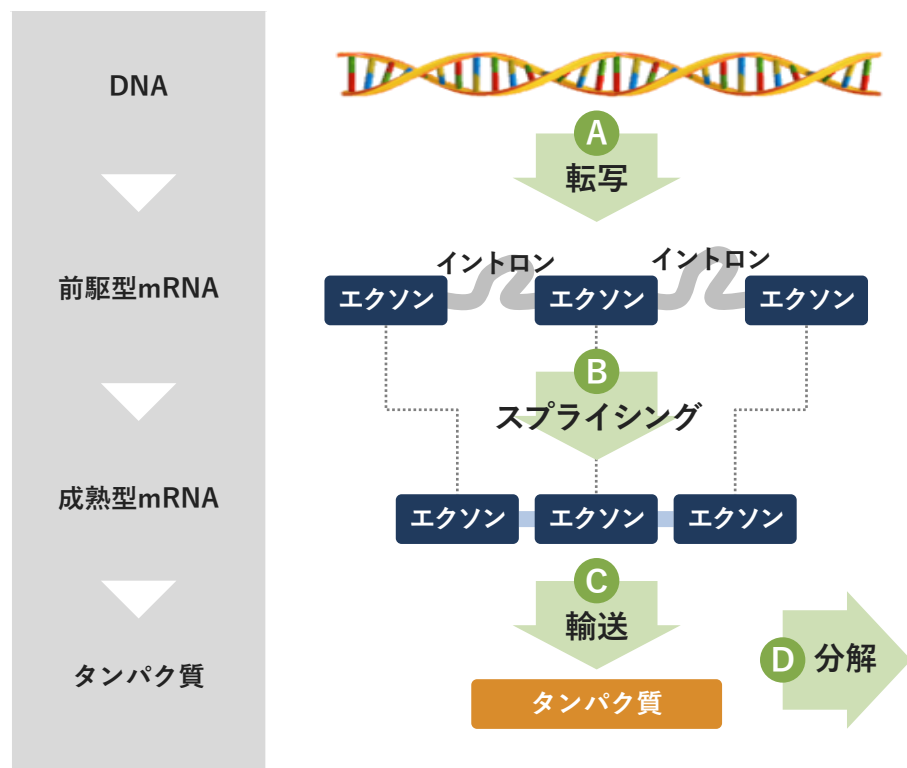
目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2025年8月期業績および2026年8月期業績予想	P.	6
3.	パイプラインの進捗状況	P.	10
4.	事業の振り返りと今後の見通し	P.	25

RNAの生成プロセスと当社のパイプラインが作用する各過程

- CTX-177（MALT1阻害薬）を除く当社のパイプラインは、RNAを生成するそれぞれの過程に対して作用し、細胞に更なる負荷を掛けることで、既に負荷がかかっているがん細胞を選択的に死滅させる作用機序を持つ

正常なRNAを生成し、タンパク質を生成する過程



A: 転写

当社パイプライン: CTX-439(CDK12阻害薬)

DNA情報をmRNAに写しとる過程。この転写過程を直接つかさどっている重要なタンパク質としてRNAポリメラーゼが知られている。RNAポリメラーゼはDNAを鋳型として前駆型mRNAを作る

B: スプライシング

当社パイプライン: rogocekib: CTX-712(CLK阻害薬)

転写後の前駆型mRNAはタンパク質を作るために必要なエクソン配列に加えてタンパク質合成に不要なイントロン配列の両方を含んでいるため、エクソン配列を繋げ、イントロン配列を取り除き、成熟型mRNAを作る過程

C: 輸送

当社パイプライン: GCN2阻害薬

スプライシングを受けた成熟型mRNAやタンパク質を作るために必要なトランスファーRNA (tRNA) をタンパク質合成の場に輸送する過程。

D: 分解

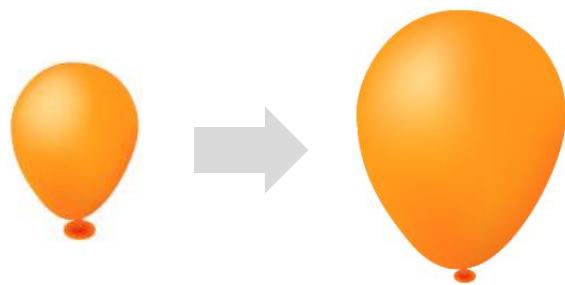
当社パイプライン: 新規パイプライン (標的非開示)

タンパク質合成の鋳型として役割を果たしたmRNAやtRNAが分解される過程。

当社が手掛ける抗がん薬のコンセプト

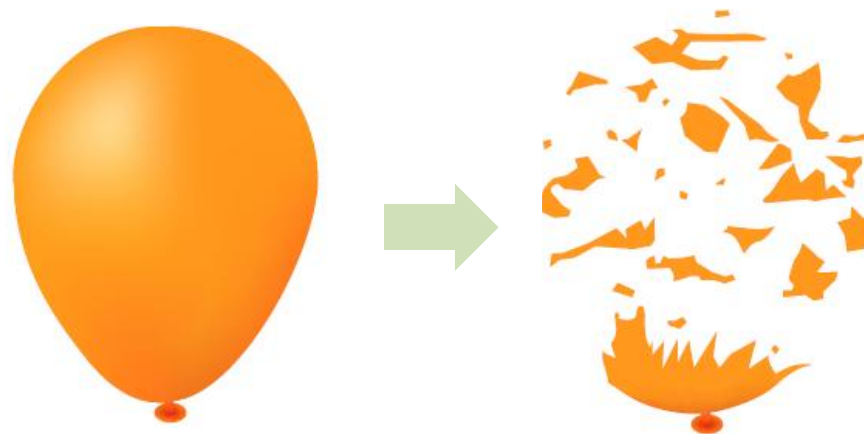
- がん細胞に比べてストレスがない正常細胞は、追加のストレスにはある程度耐えうる（左図）
- 既に大きなストレスがかかっているがん細胞に追加でストレスを加えると、がん細胞は耐えることが出来ずに死滅するものと期待される（右図）

正常細胞



ストレス追加時

がん細胞



ストレス追加時

5つのパイプラインのうち、2つは臨床ステージ ～市場性の高いrogocekibに集中し、価値創出を加速～

- 市場ポテンシャルを有する rogocekibに経営リソースを集中し、日本・米国での迅速承認を目指す
- その他のパイプライン（CTX-177/CTX-439/GCN2）は、ライセンス導出を通じて収益化の機会を検討

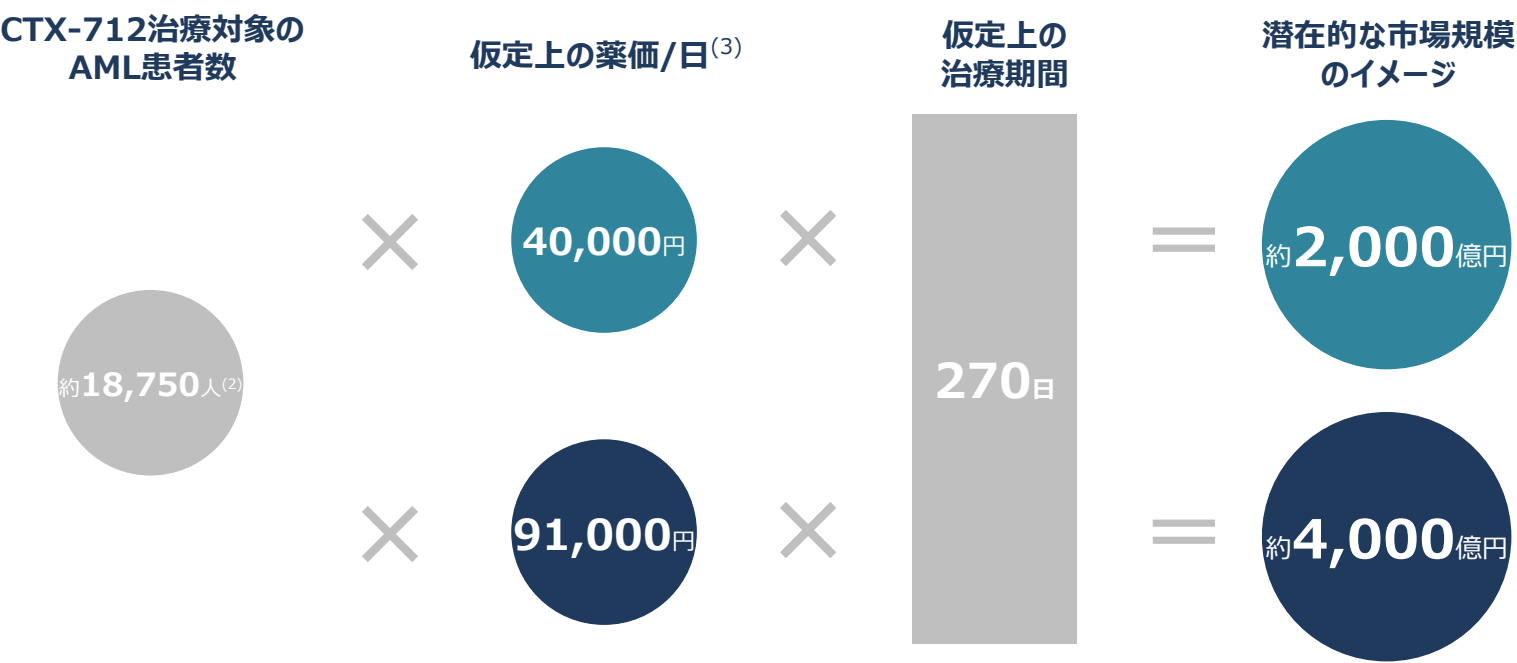
	標的	開発コード	一般名称	主な適用がん種	開発ステージ	現時点での 想定オプション
①	CLK阻害薬	CTX-712	rogocekib	急性骨髄性白血病(AML)、 骨髄異形成症候群(MDS)、 卵巣がん、その他固形がん	日本第1相試験終了、 米国第1/2相試験中	迅速承認（第2相後） 日本：自社・製造販売 米国：ライセンス導出
②	MALT1阻害薬	CTX-177		リンパ系腫瘍	米国第1相試験中	権利返還後 ライセンス再導出
③	CDK12阻害薬	CTX-439		固形がん	前臨床試験終了済み	ライセンス導出
④	GCN2阻害薬	開発コード なし		固形がん、血液がん	前臨床試験	ライセンス導出
⑤	非公開	開発コード なし		固形がん、血液がん	前臨床試験	未定

未充足市場に挑む革新的低分子抗がん薬「rogocekib」

～急性骨髄性白血病(AML) 2次治療以降の市場規模2,000億円以上×年率10%超の成長市場～

●アンメットメディカルニーズが極めて高い急性骨髄性白血病（AML）の二次治療以降を初期適応として想定。対象市場規模は2,000億円超を見込んでいる。AML治療薬のグローバル市場にて年平均10%を超える成長が見込まれている、有望な領域である。

AML 2次治療以降における潜在的市場規模の推定⁽¹⁾



(1) AML 2nd LineとしてのCTX-712の潜在的な市場規模(Serviceable Available Market)を推計するためのイメージであり、当社グループが2025年8月現在で営む事業に係る客観的な市場規模を示すものではない。また、本スライドに記載の数字は、外部の調査資料等を参照して当社が推計したものであり、その正確性にはかかる調査資料等や推計に固有の限界があるため、上記の推計と実際の市場規模とは大きく異なる可能性がある

(2) 患者数はGlobal Data 2020における2029年時点の推定患者数をもとに推計

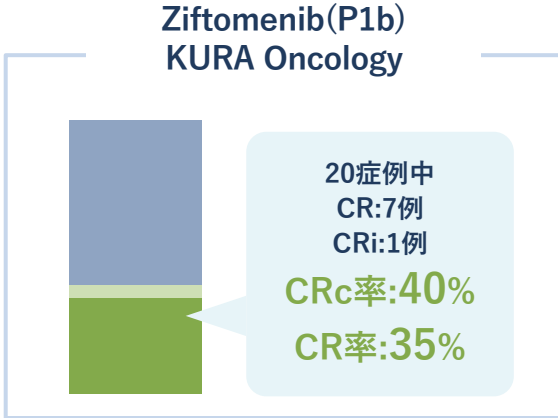
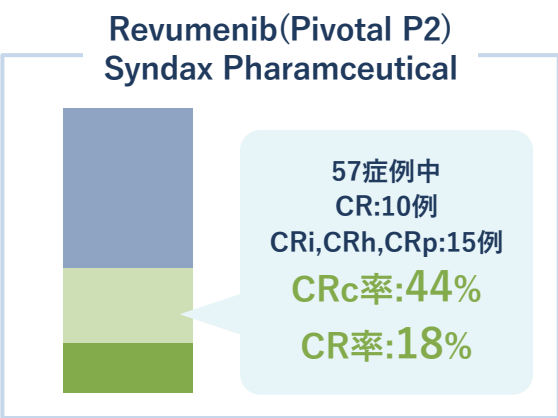
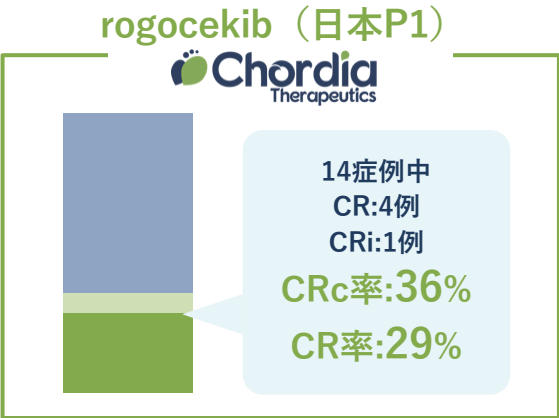
(3) Global Data 2020より、Venclextaの日独米の平均薬価285,68\$／日、およびXospataの日独米の平均薬価653.47\$／日(1\$を140円で換算)

(4) Xospataの国際共同第Ⅲ相試験における生存期間の中央値である9.3か月を参考に当社が推定

低分子抗がん薬「rogocekib」 日本第1相試験にて有望な成績 ～直近のFDA承認薬との比較でも遜色ない競争力～

●単剤で承認または承認申請間近の治療薬とも比肩し得る成績。現在は、米国のAMLでの症例数を追加していくことに注力

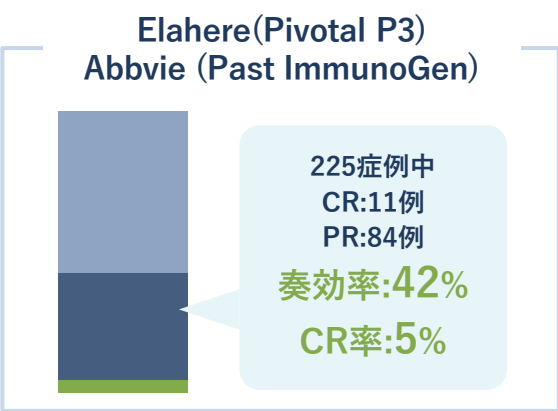
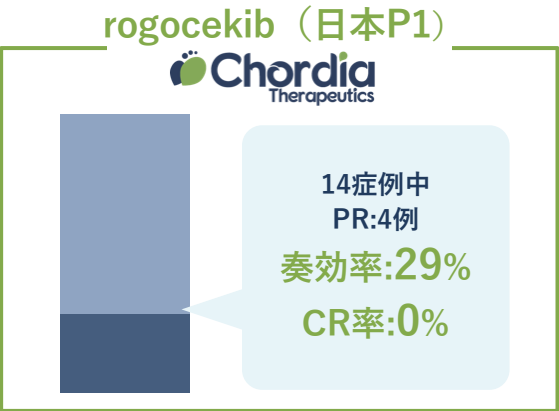
AML



2024年にP2結果で承認

Pivotal P2試験中

卵巣がん



2024年FDAにて承認済み

- CR (固形がんおよび血液がん)
- がん細胞が体内からなくなった正常な状態
- CRc (血液がんのみ)
- がん細胞が一時的に体内からなくなった状態。正常血液細胞の回復は問わない
- PR (固形がんのみ)
- 腫瘍体積が1/3以下になった状態

- : CR
- : CRc
- : PR (固形)
- : 奏効なし

Rogocekibの開発マイルストーン

～日米96名症例登録と臨床試験のプロセスが着実に進捗～

- FDAが提唱する「Project Optimus」の理念に基づき、患者の安全性と治療効果の最大化を目指し、より精度の高い用量設定に向けて開発スケジュールを見直している。品質向上と承認後の臨床的価値最大化を目的とした戦略的判断である。
- 臨床試験の症例組入れは着実に進行中(日米96名症例登録済)である。さらに、FDAから希少疾病用医薬品（Orphan Drug）指定を受ける等、規制当局との連携も順調に進んでおり、臨床試験のプロセスは着実に進捗。

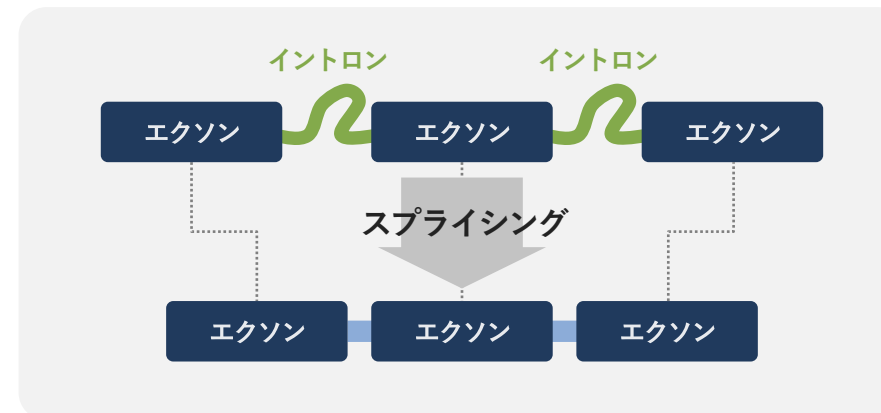
2025年8月時点での達成状況			現時点での想定マイルストーン		
☒	2024年下期	CTX-712の医薬品一般名称（rogocekib）決定	☐	2026 中期	rogocekib の米国臨床試験の第1相中間成績公表
☒	2025年上期	rogocekib のOrphan drug designationの申請	☐	2027 中期	rogocekib の日本／米国臨床試験の第2相試験開始
☒	2025年8月末	rogocekib の 日米96名症例登録済	☐	2028 後期	rogocekibの日本での販売承認申請
			■ : 実施中		

CY2024		CY2025		CY2026		CY2027		CY2028	
上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
日本第1相試験 (AML/MDS等)									
米国第1/2相臨床試験の第1相パート AML/MDS									
						第2相パートは日米で実施予定（注）			
						販売承認申請（注）			

（注）臨床試験が当社の想定どおりに進行することを前提とした仮定の記載であり、必要な臨床データが当社の想定どおりに収集できない場合や、臨床データが収集できたにもかかわらず何らかの理由により次の臨床試験の実施や承認申請が実施されない、又は実施までに時間を要する場合には、記載された時期と異なる時期に実施される、または全く実施されない可能性がある

CTX-712の国際一般名称はrogocekibに決定

- 医薬品国際一般名称 (INN:International Nonproprietary Name) が世界保健機関 (WHO:World Health Organization) よりrogocekibと決定された



当初予定通りに米国での希少疾病用医薬品指定を受領

- 再発難治性の急性骨髄性白血病（AML）にて当社が開発を進めている CLK 阻害薬 rogocekib について、米国食品医薬品局（FDA）からオーファンドラッグ指定（Orphan Drug Designation(ODD): 希少疾病用医薬品指定）を2025年1月に受理

米国での希少疾病用医薬品指定を受けるメリット

- 承認時申請手数料の免除
- 承認後最長7年間のデータ保護
- 税制優遇

rogocekibの将来的なパイプライン価値の
最大化（含む導出価値）へ大きく貢献する

FDA Guidance Project Optimus への対応

- Project Optimusは、既承認の抗がん薬において、毒性や忍容性の問題で承認された用量では使用継続が困難な事例が見受けられることを背景にしてFDAより提唱された、抗がん薬の開発における用量設定の最適化を目的としたガイダンスである。
- 当社はFDAが提唱する「Project Optimus」の理念に基づき、患者の安全性と治療効果の最大化を目指し、より精度の高い用量設定に向けて開発スケジュールの見直しを進めている。

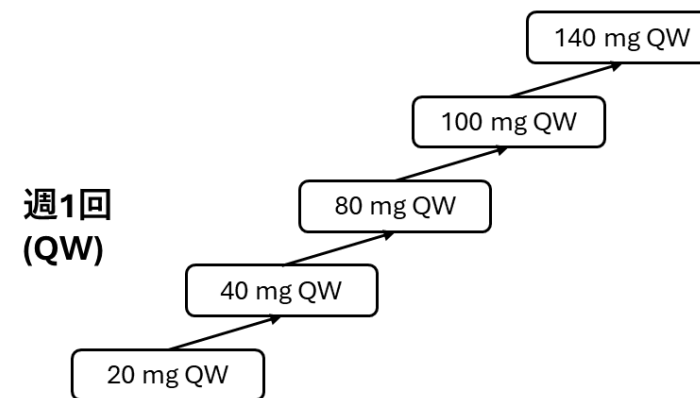
Guidanceの主たる内容

- 科学的で統合的な用法・用量の設定の重要性
 - 臨床試験で幅広い用法・用量の検討
 - PK, PD, 用量反応解析の活用
 - 非臨床試験データの活用

当社の対応

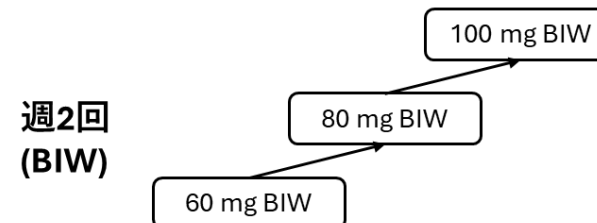
- 科学的で統合的な用法・用量の設定の重要性
 - 週1回に加えて週2回の用法の検討も行う
 - 拡大コホートで複数の用法・用量の比較検討を行う

用量漸増パート
N= 18-30 (用量ごとにN = 3-6)



拡大パート
N=60~70を想定
(Nは症例数)

N= 12-18 (用量ごとにN = 3-6)

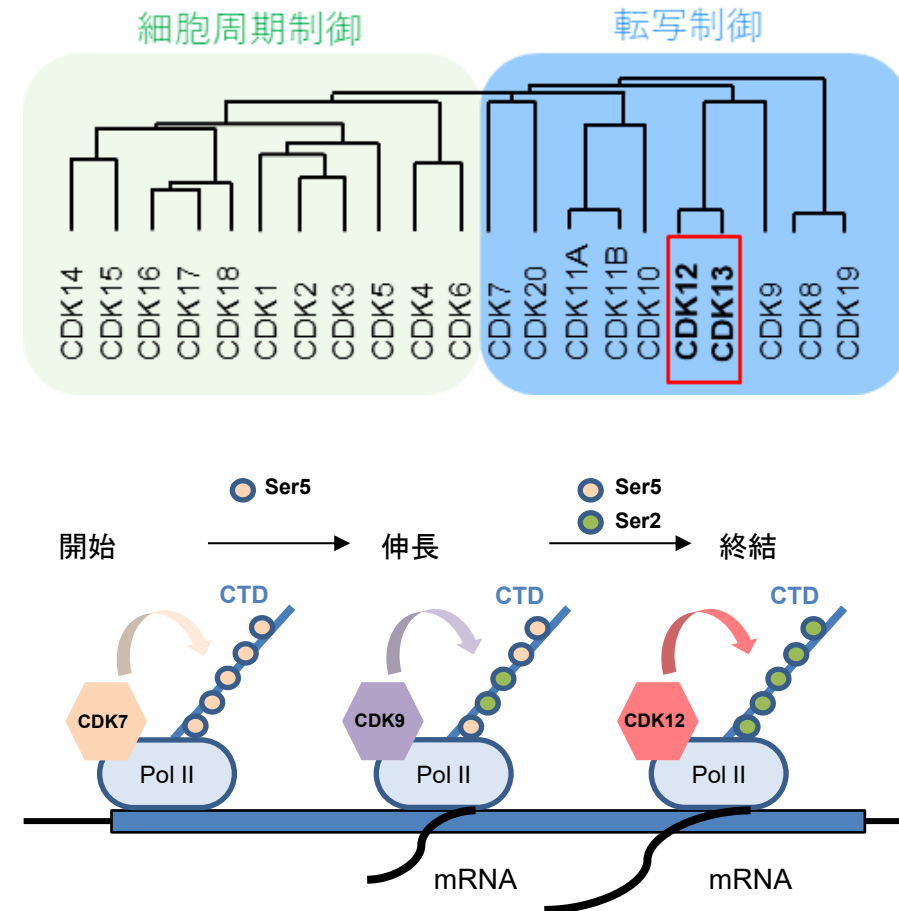


CDK12阻害薬 CTX-439

- 臨床試験開始に必要な前臨床データを取り終えた状況であり、社内では開発戦略立案に向けたバイオマーカー研究などを実施中
- 臨床試験開始に向けて戦略的なパートナーを探索中

CTX-439

- 経口投与可能な選択的なCDK12/13キナーゼ阻害薬
- CDK12とCDK13は構造的に近しく、機能も重複している
- CDK12/13はRNA転写の主に終結反応を制御する
- CDK12/13の機能を阻害すると転写の早期終結して短鎖型mRNAが生じ、機能の劣ったタンパク質が翻訳されるが、とくにDNA損傷応答に関わる遺伝子群への影響が大きい
- CTX-439は動物モデルにおいて、単剤もしくは既承認薬との併用で抗がん作用を発揮する

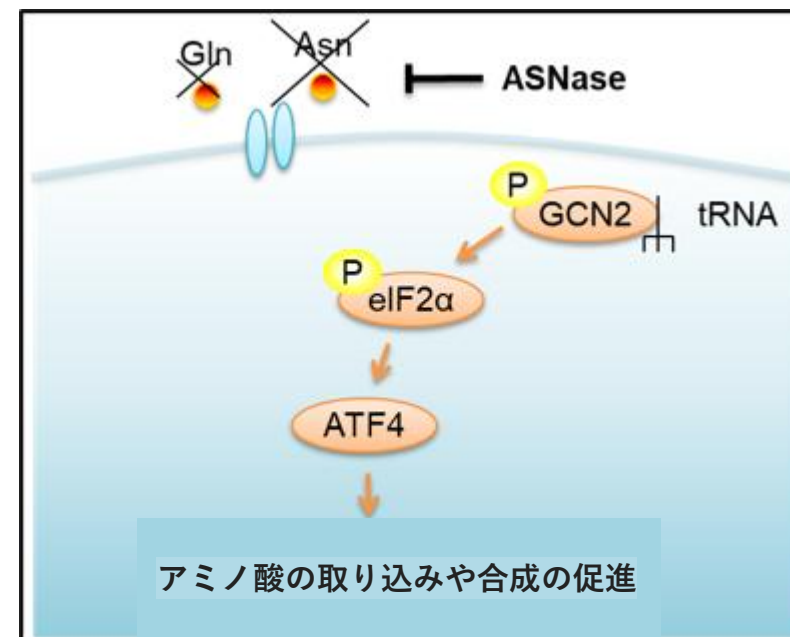


GCN2阻害薬 CRD-099

- 化合物の最適化研究を終え前臨床試験の実施前の状況
- 前臨床試験の開始に向けて戦略的なパートナーを探索中

CRD-099

- ・ 経口投与可能な選択的なGCN2キナーゼ阻害薬
- ・ GCN2は細胞内アミノ酸濃度をモニタリングしているタンパク質で細胞内アミノ酸濃度が低下した状態で活性化される
- ・ GCN2の機能を阻害するとアミノ酸の細胞外からの取り込みや新規合成が進まなくなり、アミノ酸枯渇状態となり細胞死が誘導される
- ・ CRD-099は動物モデルにおいて、アスパラギナーゼなどのアミノ酸濃度を低下させる既承認薬との併用で抗がん作用を発揮する



DWTIとの共同研究

- 2025年 7 月 8 日に共同研究開始を発表
- 当社パイプライン化合物の新たな可能性を探る共同研究であり、両社にメリット有



眼科領域での評価技術・
治療薬開発の実績

眼科疾患での薬効・
薬理試験による
有効性の検証



抗がん薬の探索研究・
創薬ノウハウ

キナーゼ阻害活性を持つ
特定化合物の提供・
関連ノウハウの供与



千寿製薬との共同研究

- 2025年 8 月 1 日に共同研究開始を発表
- 当社パイプライン化合物の新たな可能性を探る共同研究であり、両社にメリット有

The logo for SENJU, with the letters S, E, N, J, U in different colors (blue, green, yellow, orange, purple).

眼科領域における長年の
実績と知見

医薬品研究開発能力・
薬理評価能力

事業化・臨床応用までの
橋渡し能力



抗がん薬の探索研究・
創薬ノウハウ

キナーゼ阻害活性を持つ
特定化合物の提供・
関連ノウハウの供与

The logo for Chordia Therapeutics, featuring a green paw print icon and the text "Chordia Therapeutics".

2

4 件の物質特許とそれを支える複数の用途特許・製法特許

● 武田薬品工業からライセンスを受けた物質特許が十分に特許期間を有していることに加え、臨床入りしているプログラムでは用途特許や製法特許の取得による知財権利の確保を推進し、順調に登録済国数は増加

物質特許						
	出願番号	基礎出願日	国際公開日	国際公開番号	登録済国数	特許権者
rogocekib CTX-712 (CLK阻害薬)	PCT/JP2017/016717	2016年4月28日	2017年11月2日	WO2017/188374	51	武田薬品工業
	PCT/JP2023/013361	2022年3月31日	2023年10月5日	WO2023/190967	—	当社および 国立がん研究センター
	PCT/JP2025/000724	2024年1月12日	2025年7月17日	WO2025/150571	—	当社
CTX-177 (MALT1阻害薬)	PCT/JP2019/046261	2018年11月28日	2020年6月4日	WO2020/111087	16	武田薬品工業
	PCT/JP2021/019911	2020年5月27日	2021年12月2日	WO2021/241611	1	武田薬品工業
	PCT/JP2023/003154	2022年2月2日	2023年8月10日	WO2023/149450	—	当社および 小野薬品工業
CTX-439 (CDK12阻害薬)	PCT/JP2019/013531	2018年3月29日	2019年10月3日	WO2019/189555	50	武田薬品工業
— (GCN2阻害薬)	PCT/JP2017/028928	2016年8月10日	2018年2月15日	WO2018/030466	49	武田薬品工業

目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2025年8月期業績および2026年8月期業績予想	P.	7
3.	パイプラインの進捗状況	P.	10
4.	事業の振り返りと今後の見通し	P.	25

研究開発・コーポレート活動ともに順調に進行

研究開発

rogocekib

臨床試験
症例登録総数

**日米96名
症例登録を完了**

海外

希少疾病用医薬品指定
(Orphan Drug)
2025年1月

CTX-177

海外

第1相臨床試験概要
米国臨床腫瘍学会で
小野薬品工業が発表

全世界における
全権利を再取得
2025年4月

CTX-439
GCN2

海外

CTX-439および
GCN2について
米国がん学会で発表

新たな治療選択肢になる
可能性を報告
2025年4月

コーポレート活動

千寿製薬およびデ・ウエスタン・セラピテクスと眼科疾患領域における共同研究を開始

日本スタートアップ大賞 2024 において文部科学大臣賞を受賞

※2024年7月

2026年8月期に向けての優先事業目標

1

rogocekib(CTX-712) 承認への臨床試験の進捗

- 米国での第1 / 2 相臨床試験における拡大コホートの開始（組入れ症例数の加速）
- 大手国際学会において、米国での第1 / 2 相臨床試験の第1 相パートの中間報告

2

新規事業提携に関する積極的な取り組みを行う

- CTX-177 は、再導出に向けて重点課題として位置づけ、積極的に推進している。CTX-712 の可能性に加え、CTX-439、GCN2 を含む複数のパイプラインについても、国内外の企業との事業提携の可能性を継続的に検討している
- 事業提携に関する協議は継続的に行っており、具体的な内容が確定した段階においては、適時適切な情報開示を行う方針である

3

株主に対しての情報開示を適切に実行する

- 研究の進捗については、国内および国際学会での発表で開示し、少なくとも年間1 回以上の学会での発表を行うこととする
- 事業の状況については、投資家コミュニケーションを重要事項として認識し、投資家向けセミナーの開催、メディアでのCEOのメッセージは密に行うこととする

Tomorrow is Another Day

明日に希望を感じる社会の実現

「日本発」「世界初」のこれまでにない新しい抗がん薬を、
一日でも早く患者様のもとに。

———— Mission ————

We are passionate to deliver first in class cancer drugs to patients.

First in Class 抗がん薬を創る

———— 2030 Vision ————

To be an R&D oriented pharmaceutical company based in Japan.

日本発の研究開発型の製薬会社になる

当社の情報開示の方針について

- ・データの発表などは学会の許可を得てからの情報公開となりますが、可能な限り速やかな情報開示を行ってまいります。
- ・個別の質問に対する回答は、フェアディスクロージャーの観点から、控えさせて頂いております。
- ・IRに寄せられた質問に関しては、社内で協議のうえ、適切なタイミングにてホームページ上の「IRよくある質問」ページに回答を追加していきます。

免責事項

- 本資料は、関連情報の開示のみを目的として当社が作成したものであり、米国、日本国またはそれ以外の一切の法域における有価証券の売付けの申込みまたは買付けの申込みの勧誘を構成するものではありません。
- 米国、日本国またはそれ以外の一切の法域において、適用法令に基づく登録もしくは届出またはこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集または販売を行うことはできません。
- 本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。
- 将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。
- 将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。
- 将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。
そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。
したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

